

# 令和4年度生徒募集要項

受験区分		単願	併願	再募集(単願)
募集 人員	文理探究科	40名(男女)		(定員に満たない人員)
	工学探究科Ⅰ類	60名(男女)		
	工学探究科Ⅱ類	140名(男子)		
入学志願者の資格		(1) 令和4年3月に中学校を卒業する者 (2) 中学校を卒業した者		
出願手続き方法		志願者各自によるインターネット経由での出願手続き ※別紙「Web出願システムのご利用方法」を参照		入学願書・調査書に検定料を添えて下記受付期間に本校に提出
出願情報事前入力期間		令和4年1月6日(木) 9時00分から 令和4年1月11日(火) 15時00分まで		
Web出願期間		令和4年1月12日(水) 9時00分から 令和4年1月20日(木) 15時00分まで		
入学検定料		15,000円 ※納入後は原則返金できません。		
出願書類(調査書等)受付期間		令和4年1月25日(火) 9時~15時 令和4年1月26日(水) 9時~15時		令和4年3月17日(木) 9時~15時
出願書類受付場所		本校(郵送可) ※出願書類受領時に受験票発行します。		
試験実施日		令和4年2月1日(火) 【参考】追試験日2月8日(火)		令和4年3月18日(金)
試験内容		● 学力試験 国語・数学・英語 ● 面接	● 学力試験 国語・数学・英語	● 作文 ● 面接
試験会場		本校		
合格発表		令和4年2月10日(木) 正午 (1) Web上にて発表 (2) 合格通知書・「入学の手引き①」等を中学校長あてに郵送 ※電話による問い合わせは不可		令和4年3月18日(金) 合格通知書「入学の手引き①」等を本人又は代理の者に交付 ※電話による問い合わせは不可
入学手続き		令和4年2月14日(月)、 15日(火)の2日間 ※入学の手引き①参照	令和4年3月16日(水)、 17日(木)の2日間 ※入学の手引き①参照	令和4年3月22日(火) ※入学の手引き①参照

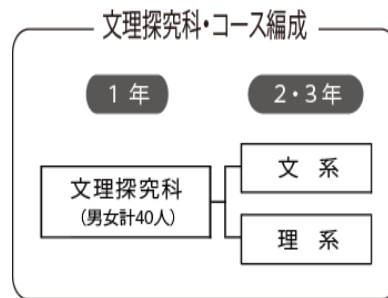
## 試験日程詳細

	時間	単願	併願	再募集(単願)
令和4年2月1日(火)	8:15~	受付開始	受付開始	決定次第、中学校長経由でお知らせいたします。
	8:15~8:35	試験場への入場	試験場への入場	
	8:40~	注意伝達	注意伝達	
	8:55~	解答上の注意	解答上の注意	
	9:00~9:50	国語	国語	
	10:05~10:55	数学	数学	
	11:10~12:00	英語	英語	
	12:50~	面接		

# 令和4年度 学科・コース編成

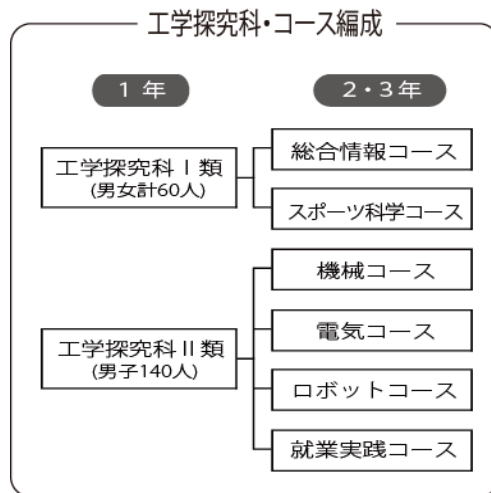
## ◎文理探究科 男女計40人

現代社会においては、「生きる力」や「コミュニケーション能力」を育む教育が一層求められています。これらの能力育成を中心に置き、平成30年度、静岡県で初めての「文理探究科」の設置をしました。1年次での基本学習で「考える力」を培った上で、2年次から志望に応じた系統を選択します。国公立大学や私立大学への進学を視野にしつつ、学習内容の本質を理解し、主体的な学びを通して、探究心の育成にも努めていきます。



## ◎工学探究科 【I類】男女計60人 【II類】男子140人 合計200人

主に実習や実技などを通して、工業の学習を一步前進した「工学」としてとらえる学びを重要視しています。選択コースについては、男子と女子を募集するI類に「総合情報コース」、「スポーツ科学コース」、男子のみを募集するII類に「機械コース」、「電気コース」、「ロボットコース」の2種類の類型を設置しました。1年次での学習を踏まえ、2年次からのコース選択をします。



### 【I類】

#### 総合情報コース

IT教育を主体とした実践学習を通じて、AIやIoT等のデジタル活用技術を育成し、各種資格の取得を目指します。企業が求める即戦力として貢献できる人材の育成を目指します。

#### スポーツ科学コース

スポーツ実践を通して人間の精神や体力を科学的に分析するなど、理論的にスポーツを学び、幅広くスポーツ分野で活躍できる人材の育成を目指します。

### 【II類】

#### 機械コース

機械メンテナンスや保守管理等の技術や理解のため、電気や電子機械、更に生産管理の内容のカリキュラムが中心です。ものづくりの基本的知識・技術・技能を学ぶとともに、その楽しさを感じながら、将来のエンジニアを目指します。

#### 電気コース

施設建設や機械設備を導入したりする際は、電気工事が必要不可欠です。電気系の基礎、技術・技能を身に付け、全員が電気工事士等の資格取得を目指します。

## ロボットコース

機械制御、電子制御、コンピュータ制御の基礎を学び、ロボット工学の全般的な基盤となる内容を学びます。ロボットを製作したり、動かすための機械、電気・電子、情報などの各分野の知識の学習と、様々な仕組みや技術を学びます。

## 就業実践コース

工学の基礎を踏まえた上で、高い実践能力を兼ね備えたエンジニアの育成を目標としたカリキュラムとなっています。実際の企業現場での豊富な実習カリキュラムを通じて、最先端の技術や技能などに触れることで、主体的な学びを実現します。